



「お花畑を目指して」

この絵は過去の写真をもとに制作したものです。時期は7月末、場所は大雪山のコマクサ平に通じる雪渓です。

私ごとですが、この雪渓を訪ねるきっかけをお話します。当時は野草のアルバムを作ろうと写真撮影していました。ある時北海道の知人が「大雪山には綺麗なお花畑がある。」と話してくれました。平地しか知らない者、高山に“お”的つく花畠など想像もつきません。「いらっしゃい。」との知人夫妻のお誘いに甘えての初山行でした。

この日は幸いにも快晴で爽やかな天気です。標高約1,520mの登山口を7時に出発、ゴゼンタチバナや、アオノオツガザクラ等が咲く山道を約50分行くとこの夏山に残る雪渓です。初めて体験する雪渓を、ストックを頼りに踏みしめながら進みます。友人夫妻は軽やかに我ら初心者をエスコートしてくれます。雪渓の融雪水は溪流となり、エゾコザクラやチングルマの雪田を侵蝕しています。登山口から約1時間半、コマクサ平（標高約1,840m）に到着です。見事な花園に“お花畠”を納得しました。

大雪山という呼名が書物に出現するのは1899年（明治32）の「日本名称地誌」が最初とされていますが、以前のアイヌ語では「神々の遊ぶ庭」という意味の“カムイミンタラ”と呼ばれていました。また1921年にこの山系を縦走した文人・大町桂月は、雄大な自然を「富士山を登って高さを語れ、大雪山を登って山岳の大きさを語れ」との言葉で表現しています。

この山行で、厳しい気象の中でもたくましく生きる可憐な花々、それらを包み込む雄大な景色、これを感性で捉えた人々の素晴らしい言葉を知る旅でした。



菊岡 保人

Size : 530×455mm (F10)